

祝 新成人

未来へ

大きくはばたけ

切り開いて進む

関川村長

平田大六



成人おめでとございます。

二十歳。おとなの仲間に入られたこと、心からお祝いし、期待いたします。これまでの「少年」とはちがひ、すべての自身の行動が「自己の責任」に期する、ということが成人には求められます。

日本の国の総人口は、この間から減り始めました。40年後に1億人を割り、50年後に0.86億人、その後もカーブは急降線をたどることを、国は予測しています。若い人が少なくなりませう。

新潟県では、半数近い大学が定

今年の成人式は、8月15日、村民会館大ホールで開催されます。該当者は1991年度生まれ（平成3年度）の98人。内訳は男性が49人、女性が49人。この内、村内に住所がある方は79人です。
* 個人情報保護の観点から、成人者名簿は掲載しませんので、ご了承ください。

員割れとなっていて、県立高校の統合再編も検討され、新潟市内の中央部で、中学校の統合が話題になっています。職場でも新人・後輩がなかなか見つからない事態が予想されます。市場も、需要も、供給も顧客減少を素直に受け止め、戦略のたてなおしをしなければなりません。以上は、すべての国民に平等に与えられた客観的条件です。このなかで、どうやって攻めて生きてゆくか試される時です。あなたならどうする。若いあな

たなら、どうする。他人に、あるいは何かに頼ることは易（やす）い、が、それが成功するかはわかりませう。

フロント・ランナー（Front Runner、先頭集団）という言葉があるそうです。皆さんはまさに、そのF・Rです。フロントはフロントティア（開拓者）という言葉にも通ずると思います。

成人をむかえた皆さんに望むところは、そこなのです。皆さん一人ひとりの頑張り（そく）が、村づくりです。期待しています。

伊藤直輝さん（上関）

現在は仙台市在住



このたび、晴れて成人の門出を迎えるにあたり、新成人として自覚と責任が伴うことをひしひしと感じています。

昨年、未曾有の大震災を経験し、震災を通じて人と人との強い絆を目の当たりにすることで、震災元年に二十歳を迎えた私たちこそが、次代を担う一員として社会に貢献するべきなのだと思えさせら

れました。

私自身、大学野球において日本一、さらにはプロ野球選手を目標に日々励んでいます。成人と言えどもまだまだ未熟者です。これからも感謝の気持ちを忘れず、これまでの経験を糧に、新成人の見本となるよう努めていきたいと思っています。

二十歳の誓い

川又美咲さん（鮎谷）



学生生活も終わり、今年の3月から社会人として第一歩を歩み始めました。今までを振り返ると、辛い事や逃げ出したくなるような事もありました。そんなとき、いつも私を支えてくれたのは家族や友人たちです。支えがあったからこそ、これまでどんな事も乗り越えることが出来たのだと思います。支えてくれた方々に感謝の気持ち

ちを忘れず、過ごしていきたいと思っています。

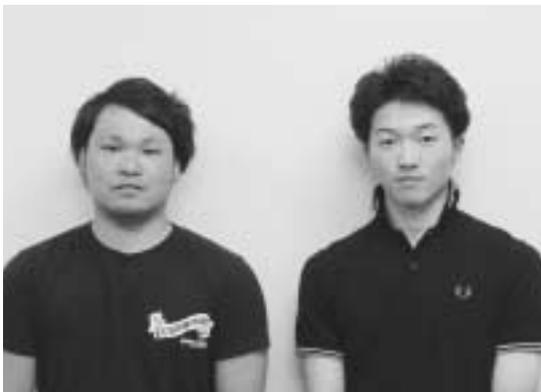
また、介護福祉士として、少しでも成長できるように日々努力し、笑顔と元気を与えられるような大人になりたいと思っています。

仕事、プライベートともに充実した毎日を送れるように、これからも頑張っていきたいです。

最高の成人式にします！

7月12日、村民会館を会場に成人式実行委員会が行われ、式典スケジュールやアトラクションなどについて話し合いが行われました。

実行委員長を務める田村直さん（大島・写真左）は「成人式は一生に一度しかない大イベントなので、みんなの記憶に残るような式にしたい」と意気込みを話していました。



【実行委員】

田村 直さん 平田 優太さん
伊藤 瑞穂さん 船山 裕美子さん